

ニューズレター No.39

平成 16 年度支部総会 及び 第 1 回(通算 50 回)支部例会 開催



今年度の支部総会、ならびに通算 50 回を記念する第 1 回研究例会がさる 5 月 29 日(土) 広島大学教育学部を会場として開催されました。当日は日本英学史学会評議員の出来成訓先生が東京から駆けつけてくださいました。参加者は 22 名。熱気溢れる議論が展開されました。

平成 16 年度日本英学史学会広島支部総会 及び 第 1 回(通算 50 回)支部例会プログラム

日時：平成 16 年 5 月 29 日(土) 午後 1 時より
(12 時受付開始)

場所：広島大学教育学部 講義棟 1 階 L-107 教室
〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1
TEL 0824-22-7111 (代)

支部総会 (13:00-13:30)

支部例会・開会行事 (13:40-13:50)

挨拶 小篠敏明 (支部長・広島大学大学院教授)
祝辞 出来成訓 (日本英学史学会評議員・神奈川
大学教授)

記念講演 (13:50-14:50)

「英語へ最敬礼の旅」

講師 五十嵐二郎 (顧問・広島大学名誉教授・
広島文教女子大学前学長)

司会 小篠敏明

シンポジウム (15:00-16:45)

「広島支部の歩みを振り返って
これからを展望しつつ」

パネリスト

定宗一宏 (顧問・広島文化短期大学名誉教授)

妹尾啓司 (顧問・岡山商科大学名誉教授)

寺田芳徳 (顧問・比治山大学名誉教授)

松村幹男 (顧問・広島大学名誉教授)

司会 竹中龍範 (副支部長・香川大学教授)

閉会行事 (16:45-17:00)

挨拶 田中正道 (副支部長・広島大学教授)

写真撮影

懇親会 (18:00-20:00) 会場 魚民西条駅前店

平成 16 年度第 1 回役員会

研究例会に先立ち、今年度第 1 回支部役員会を午前 10 時より開催しました(出席者 12 名)。主な議題は次の通りです。

・報告事項

1. 平成 15 年度活動報告について
2. 同 会計報告・会計監査報告について
3. その他

・協議事項

1. 支部活性化について(会則変更について)
2. 平成 16 年度活動計画について(第 2 回例会について)
3. その他

特に、支部の名称変更を含む会則変更について、総会への最終案まとめに時間が費やされました。また、今年度第2回例会は12月4日～5日、高知で開催予定であることが報告されました。

平成16年度支部総会

午後1時より、今年度の支部総会が開催されました。支部長挨拶に続き、会員の伊藤弘之先生を議長として選出、その後、昨年度の活動報告および会計報告・会計監査報告、支部活性化について（会則変更について）、今年度の活動計画について事務局より原案が示され、すべて満場一致の拍手で承認されました。

研究例会報告

通算50回を迎えた記念すべき例会は、同時に「中国・四国支部」として新たにスタートする節目の会となりました。小篠支部長の挨拶に続き、日本英文学史学会評議員の出来成訓先生よりお祝いのお言葉を頂戴いたしました。

出来先生はご著書『日本英語教育史考』をはじめ、『英語教育史資料』全5巻の編集や『斎藤秀三郎講義録集』の校訂・解題など、私たちの研究に不可欠な文献の数々を手がけていらっしゃいます。この夏、出来先生が寄贈された斎藤の著作や研究書251点を集めた「出来文庫」が、斎藤の郷里にある宮城県図書館に開設されました。

出来先生より心温まるご祝辞を頂戴した後は、五十嵐二郎先生よりご講演を頂きました。

五十嵐先生は、ご自身の英語学習・英語教育研究の歩みを、恩師の先生方のユニークなエピソードを交えて語ってくださったほか、「幕末・明治期における外国語教育の変遷」と題する先生の修士論文についてもご紹介くださいました。常に歴史的な視点を持ちながら英語教育の「今」を研究し続けておられるお姿と、ユーモアたっぷりの「語り」が聴衆を魅了してやまないご講演でした。

続くシンポジウムでは、歴代支部長の定宗先生、妹尾先生、寺田先生、松村先生より、ご自身のご研究や、支部長時代の広島支部の歩みを振り返りながら、これからの課題について様々なご提言を頂きました。

定宗先生はテープ録音によるご参加で、支部発足当時のエピソードやご尊父・定宗数松先生の『日本英学物語』のお話をしてくださいました。

続いて妹尾先生より、ご専門の歴史学や蘭学について多くの先生方について学ばれたエピソードや、オランダ留学の際に古文書の保存の素晴らしさに感銘を受けた点などをお話し頂きました。先生からは

中国四国地方の英学者を後世に残る形でまとめていけたら、というご提言がありました。

寺田先生からは、支部設立趣意書のお話や、長年取り組んで来られた庄原英学校や江田島海軍兵学校のお話とともに、地域に根ざしながら広い視野を持った研究を志向すべきであるとのご提言がありました。

松村先生からは、英語英文学とは独立した学問としての「英語教育学」の歴史とともに、専門性を高めながらも裾野を広げることの重要性をお話くださいました。また「研究の背骨」としての体系を視野に置いた研究を続けるべきだとのご提言がありました。

当日はご参加の方に感想をご記入いただきましたので、以下でご紹介いたします。

講演 「英語へ最敬礼の旅」 五十嵐二郎先生



一英語教師（と言っても、ここでは秀でた教師という意味だが）が、どのような background で育成されてくるのか、その生の実例 model を五十嵐先生の講話から窺い知ることが出来て、大変感動した。また、聴衆を酔わせる（小篠先生は、アツという間の一時間であったとおっしゃった）五十嵐流の講話は、ユーモアを交え、自分の弱点もさらけだしながら、語るものであることも分かった。五十嵐先生の人柄の良さも手伝っていたのかも知れない。方法論ばかりでなく内容のある授業を目指せと教えられた恩師飯野至誠の言葉そのままに生きられた先生であると強く印象づけられた。今の英語教師（特に中・高の）に一人でも多く聞いてほしい。

ゆっくりとした調子ながら、聴衆を引っ張る迫力は強烈であった。レジュメに話題に取り上げられた方々のプロフィールがあるので、初めて伺った方についての話もよく頭に入った。個人的には飯野先生のエピソードなどもっと詳しく知りたかったが、

先生のお話を聞くと真摯に英語学習・教授に取

り組まれたことが伺われました。と同時に、先生ご自身が師事された、旧制中学、師範学校、広島大学の先生方の素晴らしさを感じざるを得ませんでした。

深く感銘いたしました。資料についても感謝です。

五十嵐先生の講義は、先生の御人柄を反映して、興味深く御拝聴させて頂きました。特に「東京教育大学」か「広島大学」進学をどちら決めかねていた時に、その時の窓口の事務員の対応の仕方によって、「広島大学」進学に傾いて行った事をユーモアを交えながらお話しされ、人生を機微を感じさせる御講演でした。

シンポジウム「広島支部の歩みを振り返って これからを展望しつつ」



妹尾啓司先生

かつての支部長経験者から有益な話が聞けて、広島支部の今までの歩みについての理解が深められた。一方、こうした貴重な歩み、先人の苦勞をいかにして若き人々、次代をになう人々に伝えていくか、これが大変大きな使命と考える。とにかく significant なシンポジウムであった。

定宗先生のご欠席は、ご病気のためで仕方がないことではあるが、この機会に初めてお顔を拝したいと思っていたので残念。妹尾先生のこれまでのご生活がこれほど変化に富んだものであったとは大きな発見であった。蘭学史研究から見た英学史研究の弱点など教えていただいたかった。寺田先生が桜井・定宗・竹村・佐伯の先生方に親しく教えを受けられたと聞くと、広島英学史研究の奥深さが思われる。寺田先生は手堅く、実に詳細な話をなさった。広島支部の歩み、寺田先生のこれまでが明確に語られ、教えられるところが多かった。

この人の後で、似たような題で話をするのは大変だろうと松村先生に同情した。この同情は早すぎたようだ。道州制の例から話の本筋に引き込む話し方はまさにプロ。詳細なレジュメを上手く拾った話は分かりやすかった。

支部の展開についてはパネリストの先生方の意見は一致した。「研究紀要」は学問的レベルの最高水準

を目指し、「ニューズレター」は趣味的一面を啓蒙的なものにする、ということである。これからの会員拡大を思えば当然の発想であろう。問題は具体的な研究を待つほかないが、この支部会の実力なら必ず実現できようし、また実現するよう祈りたい。



寺田芳徳先生

今後、若い学者をどう育てるか難問が残ったが、それぞれのパネリストの先生方の英語に対する関わり方が伝わって来てとても興味深かった。

幅広い談論になり、将来の展望へ生かされれば幸いとおもいます。



松村幹男先生

歴代四会長（定宗先生はテープ録音）の広島支部の歩みの回顧を拝聴しながら、支部創立時の思い出を聞きながら、各先生方の見に見えない御尽力を思い、若い時とは別な感慨に囚われました。各先生のお話の中で、興味のある点を箇条書きにします。

1. 小篠支部長： 荒木文庫の活用 - 『日本英学史書誌』そのものを見たことがない。機会があれば、一度現物を見てみたい。

2. 妹尾先生： 「通事」と「通詞」の違い。専門家は理解されているが、私等素人には魅力的な説明。このような説明の仕方が先生の未来の『日本英学史事典』を作るための基礎となるのではないかと思った。

3. 寺田先生： 「若い研究者を育てないといけない」「科研費の積極的な活用」をはかるという意見に

同意。

4. 松村先生：「学的レベルの向上と素人の研究者の受け入れ」の反する2要素の両立、研究における「ローカルなものグローバルなもの両立」の意見には賛成。テーマとしては「日本と韓国の英語教育の導入史」等は良いテーマだと思った。

<<支部ニュース>>

支部の新名称は「中国・四国支部」

総会において、支部名称の変更を含む会則案が承認されました。新会則は次の通りです。

「日本英学史学会中国・四国支部」会則

第1条 本会は日本英学史学会中国・四国支部と称する。

第2条 本会は日本の英学に関する研究を行なうことを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行なう。

- 1 総会
- 2 研究発表会
- 3 その他必要と認められる事業

第4条 本会は次の者をもって組織する。

- 1 日本英学史学会に所属する会員のうち本会への入会を希望する者
- 2 その他本会の趣旨に賛成し入会を希望する者

第5条 本会に次の役員を置く。

- 1 支部長 1名
- 2 副支部長 若干名
- 3 顧問 若干名
- 4 理事 若干名
- 5 事務局長 1名
- 6 会計監査 2名

第6条 各役員の任期は2年とする。但し再選を妨げない。

第7条 役員会は第3条に定める事業目的を達成するために、会の運営その他の重要事項を審議する。

2.会務・活動の円滑化をはかるために、事務局を設け、事務局長には役員1名を委嘱する。任期は2年とし、再任を妨げない。

第8条 総会は毎年1回、支部長がこれを招集する。

第9条 本会の経費は第4条に定める者の会費および寄附金その他の収入による。

第10条 会費は1人年額3,000円とする。但し学

生は2,000円とする。

第11条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第12条 本会の会則は総会において出席者の3分の2以上の同意があればこれを変更することができる。

[附則]本会則は平成16年4月1日より施行する。これに伴い昭和52年11月10日より施行の「日本英学史学会広島支部」会則は廃止する。

平成15年度会計報告

[収入]

繰越金	52,211
預金利子	1
年会費(45口)	135,000
論叢販売(1冊)	1,500
収入合計	188,712円

[支出]

通信費	36,790
印刷費	53,340
会議費	70,864
講師謝礼・交通費	30,000
雑費	18,952
支出合計	209,946円

次年度繰越金 -21,234円

以上、ご報告申し上げます。

平成16年4月30日

会計担当 松岡博信 ㊞

会計監査報告

各位

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類、及び領収書等により監査いたしました。その結果、全て適正、正確に会計処理ができていたことを確認いたしました。

以上報告いたします。

平成16年5月26日

会計監査 山本勇三 ㊞

鉄森令子 ㊞

『英学史論叢』第7号を発行いたしました。

訃報 長年顧問としてご指導くださいました植木松太郎先生が6月18日にご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

<<日本英学史学会全国大会のご案内>>

日本英学史学会・全国大会のご案内です。一般参加をご希望の方(日本英学史学会(本部)非会員の方)は、支部事務局までご連絡ください。プログラムは学会ホームページにも掲載されています。

<学会創立40周年記念>第41回全国大会

開催日:2004年10月30日(土)~11月1日(月)

会場:早稲田大学国際会議場

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-20-14

TEL:03-5286-1755(ダイヤルイン)

*地下鉄・東京メトロ東西線「早稲田」下車徒歩10分

主催:日本英学史学会

第1日 10月30日(土)

10:00~12:00 早稲田大学図書館蔵・英学・洋学資料展(1)(早稲田大学図書館4階)

12:30 受付開始(国際会議場3階・第2会議室)

13:30 開会式

司会 小林 信行(本学会委員)

開会の辞 遠藤 智夫(大会実行委員長)

本学会本部事務局長)

挨拶 茂住 實男(学会会長 拓殖大学教授)

挨拶 ポール・スノードン(大会会長
早稲田大学教授)

14:00~15:10 特別講演

「ハムレット独白の邦訳をめぐって

- シェークスピア受容史の一側面 -」

司会 速川 和男(立正大学名誉教授)

講師 演劇評論家・河竹 登志夫

(早稲田大学名誉教授)

15:20~16:50 シンポジウム

「東京時代のラフカディオ・ハーン」

司会 庭野 吉弘(工学院大学教授)

パネリスト

ロジャー・パールバース(作家・東京工業大学教授)

池田 雅之(早稲田大学教授)

仙北谷 晃一(武蔵大学名誉教授)

17:00~18:20 総会

司会 庭野 吉弘(本学会副会長)

議事 学会活動報告、支部活動報告、会計報告、
豊田賞発表、その他

18:30~20:30 懇親会

会場「大隈会館」(国際会議場より徒歩5分)

(TEL 03-5286-1900 早稲田大学総務部)

第2日 10月31日(日)

午前の部

研究発表 第 室(3階・第2会議室)

開国・英学一般

第1部 司会:相原 由美子(昭和女子大学)

9:30~9:50 庶民から見た黒船艦隊

河元 由美子(本学会会員)

9:50~10:10 ペリー箱館来航150周年に憶う

- Rightの訳語「権」&「理」発祥 -

井上 能孝(函館大学)

10:10~10:30 ペリー来航・開国記念特別展示をめぐって - 通詞と開国 -

堀 孝彦(名古屋学院大学 名誉教授)

10:30~10:45 質疑応答

第2部 司会:高橋 俊昭(立正大学)

10:55~11:15 日本語から入ったとされる英語の語源

早川 勇(愛知大学)

11:15~11:35 教育学用語の訳語

多田 洋子(城西国際大学)

11:35~11:55 『西国立志編』における中村正直の訳語

の揺れ - Chemist・chemistryを中心に -

本多 仁禮士(町田第三中学)

11:55~12:10 質疑応答

研究発表 第 室(3階・第3会議室)

ハーン・英学一般

第1部 司会:西 忠温(崇城大学)

9:30~9:50 Lafcadio Hearn's Esthetics ラフカディオ・ハーンの美学

高成 玲子(富山国際大学)

9:50~10:10 グリフィスとハーン再考

山下 英一(本学会会員)

10:10~10:30 執拗なる“五感” - 記者ハーンから作家

ハーンへ - 庭野 吉弘(工学院大学)

10:30~10:45 質疑応答

第2部 司会:篠田 左多江(東京家政大学)

10:55~11:15 CCD(Civil Censorship Detachment)

について 西岡 淑雄(本学会名誉会員)

11:15~11:35 John W. Dower 氏の見た日本

村田 淳(金沢高校)

11:35~11:55 野球殿堂入りの問題 - 特に新世紀特

別表彰をめぐって -

堀江 義隆(近畿大学特任教授)

11:55~12:10 質疑応答

記念写真撮影・昼食・休憩

午後の部

研究発表 第 2 室 (3 階・第 2 会議室)

英学一般

第 3 部 司会: 竹中 龍範 (香川大学)

13:30 ~ 13:50 直読直解の概念と用語 - 明治期英語教育史研究 -

松村 幹男 (広島大学名誉教授)

13:50 ~ 14:10 Bain 英文典の再検討

伊藤 裕道 (日本大学)

14:10 ~ 14:30 『和英商賈対話集』(安政六年)について

小野澤 隆 (浜松大学)

14:30 ~ 14:45 質疑応答

第 4 部 司会: 小林 信行 (本学会会員)

14:55 ~ 15:15 漱石のライバル重見周吉

奥村 紀子 (クラパムコモンカンパニー)

15:15 ~ 15:35 『栃木の英学』

宮崎 路子 (国際医療福祉大学)

飛田 ルミ (非会員)

15:35 ~ 15:55 熊本藩英国留学生・長岡護美の英語論説 - International Arbitration を読む

西 忠温 (崇城大学)

15:55 ~ 16:10 質疑応答

研究発表 第 2 室 (3 階・第 3 会議室)

早稲田の英学

第 3 部 司会: 出来 成訓 (神奈川大学)

13:30 ~ 13:50 小野 梓と西洋政治思想

山下 重一 (国学院大学名誉教授)

13:50 ~ 14:10 勝俣銓吉郎と『英和对訳袖珍辞書』

遠藤 智夫 (本学会会員)

14:10 ~ 14:30 英学者・早大教授岸本能武太をめぐって

水野 修身 (防衛大学校)

14:30 ~ 14:45 質疑応答

第 4 部 司会: 小林 功芳 (関東学院大学名誉教授)

14:55 ~ 15:15 早稲田とシェイクスピア

釘島 浩子 (本学会会員)

15:15 ~ 15:35 戦後の英語教育に尽くした早大教育学部の三羽鳥「萩原・中西・五十嵐」教授について - 英語の背景と教育の狙い -

坂田 豊 (本学会会員)

15:35 ~ 15:45 質疑応答

閉会式 (3 階・第 2 会議室)

16:15 ~ 閉会の辞 小玉 敏子 (本学会副会長)

第 3 日 11 月 1 日 (月)

早稲田大学図書館蔵・英学・洋学資料展 (2)

資料展案内 時間 10:00 ~ 14:00

場所 早稲田大学図書館 4 階・レクチャー・ルーム

<<中国・四国支部事務局より>>

ニューズレター原稿募集! 英学史にまつわる「エッセイ」「研究メモ」「読書ノート」などの原稿をお寄せください。いずれも 400 ~ 800 字程度。電子メールまたはワープロで印字した原稿をお送りください。次号以降のニューズレターに掲載させていただきます。

平成 16 年度分の年会費未納の方は、同封の振込み用紙 (郵便振替) により、3,000 円 (学生の方は 2,000 円) をご納入ください。(すでに納入くださった方には同封しておりません。行き違いがございましたらご容赦ください。)

口座番号 01360-9-43877

加入者名称 日本英学史学会広島支部

今年度第 2 回の研究例会は 12 月 4 日 ~ 5 日、高知県で開催の予定です。詳しくは次号でお知らせいたします。

<<広島英学史の周辺(5)>>

7 月、県北の庄原格致高校 (庄原市) と日彰館高校 (三次市) へ模擬講義に出かけてきました。いわゆる「出前授業」です。庄原格致高校は明治 30 年、格致学院として創設されました。創始者の小田源吉は庄原英学校で学んだと言われています。一方の日彰館は明治 27 年の創設。「館祖」奥 愛次郎は、自らの履歴書に広島英学校、および慶応義塾で英学を学んだと記しています。創立 110 周年を迎えた日彰館高校では今年 4 月、奥氏の胸像除幕式が行われたそうです。愛次郎の一生を描いた『漫画 私学日彰館(上・下)』(岩田廉太郎・菁文社) は感動ものの名作 (マンガです!)。広島県立図書館や、庄原田園文化センターでも読めますので、ぜひ一度ご覧ください。

猛暑が続きます。ご自愛のほど。ニューズレターの発行が遅れましたことをお詫びいたします。(馬)

日本英学史学会広島支部ニューズレター No.39

2004 年 7 月 31 日発行

発行 日本英学史学会広島支部 (代表 小篠敏明) 事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562

広島県立大学経営学部英語研究室内 (馬本 勉)

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (馬本研究室直通)

e-mail: umamoto@bus.hiroshima-pu.ac.jp

日本英学史学会広島支部ホームページ

<http://www.hiroshima-pu.ac.jp/~umamoto/eigaku/>
